

人權作文集

ひかり 2022

第 34 集



公益社団法人大分県人權・部落差別解消教育研究協議会

この人権作文集「ひかり」という名前は、
日本最初の人権宣言と言われる水平社宣言の
「人の世に熱あれ、人間に光あれ。」
という言葉からとつたものです。

まえがき（児童生徒のみなさんへ）

この人権作文集「ひかり」は、県内の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の児童生徒のみなさんが、人権について、ひらく思つてつくることや感じてつくるとを作文として書いたものを集めて作りました。

本当にあつたことをもとに、おかしくと思つたことや感じたこと、せひが立つたこと、そして、よくつらつらたつて、じたつと、じらぐべかだと思つたことが書かれています。

筆者の多くは、自分からおかしこと思つたことをかえてじるつと行動してこまか。あざこかわらなつたじでも、おかしくと振を出しつづつとをわすれはなつたじと思つます。

また、まわりのなかまからほめられたりとじ、勇気を持つじができたり、安心できたりしたじ

けんや、なかまつながらいとの大切さをつづつた作品も多々ありました。この作文集を読んだみなさんにもいたよつたじけんをしたり、感じたりあつたじがると思つます。

自分と同じ物だと思つたり、ねがへかうべだと思つたりあつたじもあるのではなしでしょいか。作品の中には、気になる言ふ方や考え方をしてつくるものもあつます。友だちや先生・おつかのひと、感想を出しえつてほしつと思つます。

先生方へ

大分県人教の出版物では、「『障害』」「なかま」という表記を用いています。本書では、できるだけ提出していただいたおのの文言で表記するじにしました。

題名														校種	学年	なまえ	* 視点	
中津地区	久大地区	久大地区	高等学校	豊後大野市	豊後高田市	津久見市	竹田市	中津市	玖珠町	豊後高田市	豊後大野市	日田市	竹田市	日出町	白杵市	豊後高田市	日出町	白杵市
中津地区	久大地区	久大地区	高等学校	豊後大野市	豊後高田市	津久見市	竹田市	中津市	玖珠町	豊後高田市	豊後大野市	日田市	竹田市	日出町	白杵市	豊後高田市	日出町	白杵市
3	2	2	3	3	3	2	6	6	5	5	5	3	3	3	2	1	きよはり みこと	なかま
橋内 田空	横山 創大	赤峰 希ノ花	西山 未来	吉岡 愛	二宮 薈彰	中野 苅萌	飯田 瀬	K・Y	川野 真優	桑島 叶帆	酒井 心湖	大庭 丈	藤川 彩音	黒木 りおん	村松 玲央	なまえ	なかま	自分
差別・偏見	差別・家族	自分	なかま・くらし	差別	差別・偏見	自分・なかま	くらし・なかま	自分・なかま	自分	自分	自分・なかま	差別	なかま	自分・なかま	自分	自分・なかま	自分	自分
33	31	29	27	25	23	21	19	17	15	13	11	9	7	5	3	1	ページ	ページ

* 視点について

「自分・家族」「なかま」「くらし・生きる」「差別・偏見」の4つの視点で分類しました。

ことば

白杆市
小学校
一年

村松
玲央

一ねんせじば、ヒトモガんせじのひまじです。やあみじかんせともだかヒカツカーをしたりおにじりたりしたりしたあんじます。でも、ヒモジモかなつらじとまをうつめのわびがじます。

「クズ」

卷之二

「
ガ
キ」

なじの「じせき」。この「じせき」をめぐる、ぼくはかなしくなります。いわれたともだちもかなしへりなか
おをしていまお。じんなりじせきをクラスからなくしたいな、とみんなではなしをしました。
みんなで、いわれたら「のぶこ」「じせき」にのぶかんがえました。

「だいじょうぶ

「このつまらない」

「あしたもこのつまらない」

「これなどいせがれよいつにいたりませじで。あしたが、えがおがふれていたる一ねんせじにな
るといねむことある。」

「せへせ、やもつとまだかにない」をかけよつかかへがへもした。

「あしたこのつまなや眠つかせしむ」

「あしたこのつまにカシカ一せしむ」

「あしたこのつまことつまつま」

「あしたこのつまにカシカじむとつまじむ」

「これなどいせがれよいつにいたりにかかたる」を。そして、このたるのカクスにしたじで。

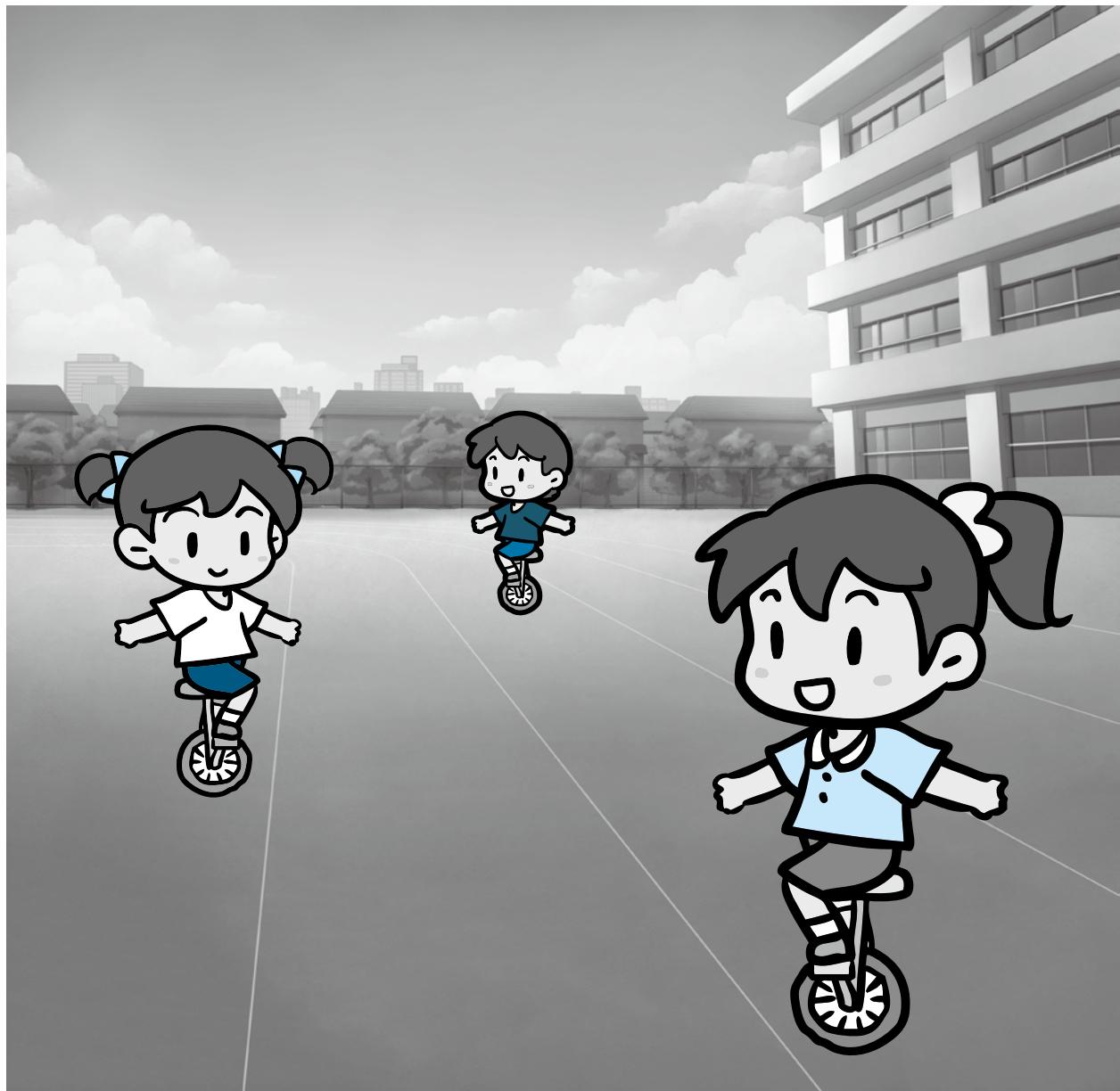
本当かたしかめて



豊後高田市 小学校 1年

あゆまひ みる

わたしは、「えいがの車のやどりたち」を読みました。たぬき村のポンキチたちがされたよひで、わたしあも、本当かわからないうのに、めぬけたりたがつたりしたいとがめりまわ。休み時間に一つの車小屋で、一つの車をえりこなしておきました。だれかが、わたしの一つの車とこなさん一つの車をとつこいたので、「わたしの、とひるで。」とつよべぬつて、とつおどせました。わたしは、ぬやまひといとほつたかど、ぬじしへれるからあそび、「とつおどせ、『ぬよね。』が口から出せました。でも、『じどりかど、』やめると「ぬよね。」がわざりまつてかいたしかめたまつがこうなど、ふかり思つました。



つおんのせじ

田中 小学校 三年

黒木 つおん

「楽しけり 助ける人に なりたうな」

「これは、私が教えた人けんひょうの體です。」

なぜこのひょうの語を教えたかといふと、助ける人が、
いいなあ、すぐこなあ、と思つたからです。

今までの私は、お友だちに「もう力をふるつてこまし
た。イヤな」とを言われるといふと、すぐ友だちを
たたいた」とがありました。おじいさんの時の私は、イラ
イラして、何かにあたつたなこと「腹がすまない」感じでした。
でも、今のはちがいます。今は、おじいさんが多かつ
たけど、今は少くなくなりました。それに、自分が悪いと
思つたら、先にあやめのようになつました。友だちから、

「やさせたりおじやん、やせしくなつたね。」
といふわれると、つれしこ氣持ちになります。

なんで「こながたにかわつたのか教えてみる」と、一つ
は、イライラした時」「じいちゃんのこか」にあわると、
先生が話を聞かして貰えるからです。先生が、紙に、私が
したことを書かして貰えます。一番ねいじこねいじを書
くと、ちょっとだけすつせりします。そのあと、自分が
悪かつた」とに色ペンで矢をつむきます。ねいじつたう、す
なねいじ

「じいじなねいじ。」

と聞こえます。ねいじあねいじ、友だちも
「私も、悪こじ」と聞こえ、じめんね。」

と、あやまつして貰えます。

「じいじなね。」と聞つたり、言つてやうつたりあねいじ、一
人ともし「じいじになつて、かい決じをめます。」

もう一つは、私のことをわかしてくれた友だちが、ふ
えたじとじ。じいじの館で、ケンカをしたじとを話し合つ
てらぬ時に、三かやんが、

「だつて、つおんのせじやん、小さくちがいるから、がまん

しないもんね。わかるよ。」

と書かれていました。私は、めちゃくちゃうれしくなりました。

そして、私もMちゃんみたいに、やさしくて、人の気持ちがわかる人になりたいな、と思いました。

じゅぎょう中、Kさんが、わからなくて困っていましたので、私が、

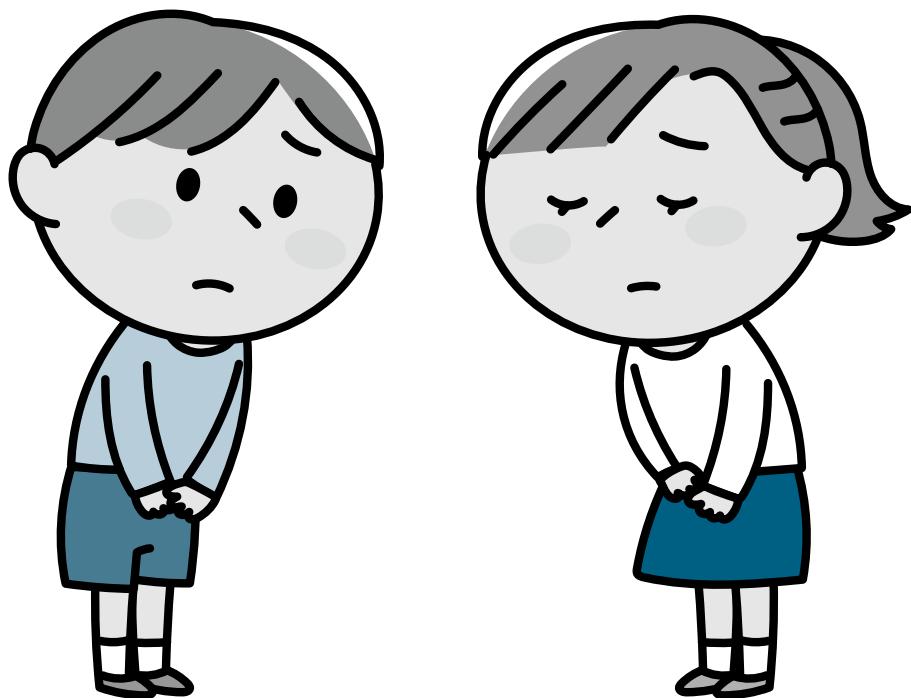
「りりに書くんだよ。」

と教えてあげたら、「りりとねりつて、

「ありがと」。

と書かれていました。私は、うれしくなって、うらうとをしたなあ、と思いました。

相手がえがおになつたら、わたしも樂しくなります。人けんひょう語に書いた「樂しくて、助ける人」になれよう、これからもがんばっていきたいです。そして、自分をもつともつとせいぜいをせんせんきたいです。



◆◆◆◆◆自分の気持ちを伝える大切さ◆◆◆◆◆

市立小学校二年

藤川 彩音

「えいこちゃんをやだったの」

休み時間に他の友だちと遊んだこと、いつも遊ぶ友だち、とつぜん、ついでに、強いて、強いて、口調でしゃべらねばならなかった。わたしがしゃべらねばならず、びっくりした気持ちやかな気持ちになりました。強いて口調で言われたことや、話したことをしても向か言われるかもしけなことこのほどもありました。だから、せつせつ自分の気持ちを伝えてやりたず、自分が悪くことになつてしまつた。その後、「いいでよかったです。」と後からしました。

朝の田の朝、同じ友だちに「やあねがい」と

「わよ」とおつし。

と声をかかられました。わたしがつまつたまの朝のしたくを手伝つてしまふ。またおねがわれると思つて、

「统一战线」

「はるかむつかね。」

とせめられました。それから、先生との二人で話しあいをしました。その時、わたしは朝のしたくなど自分でできることはしてほしくいや、うつも軽いをたのまれていやだった気持ちをほつきう伝えました。それから、少しうつ自分の気持ちを伝えられたようになりました。

このかいがんから、友だち同士でもいやな時は自分の気持ちをまつさりと伝えることが大切だと思いました。わたしは気持ちをまつさり伝えた時、自分の心の中のもやもやがスッキリしました。それから、毎日友だちとなかよく遊べるようになりました。

わたしは、これから相手の気持ちを大切にできる人になりたいと思います。自分と同じように、気持ちを伝えられず、もやもやしている人がいると思うからです。もし、近くになんやんでいる人がいたら、話をしつかり聞いてあげたいです。

なかよく遊ぶために

日田市 小学校 三年

大庭 文

ぼくたちのクラスはみんなで十一人です。中休みや

休みは、みんなでよくおにぎりやドッジボールをして遊びます。楽しく遊べる日もあるけど、けんかになる日もありました。と中で遊びをやめる人もいました。

そこで、クラスでなかよく遊ぶためにみんなで考えを出し合いました。

まあ、今までの「まつをみんなで出し合った。「おにぎりでタッチしよう」としたらバロアする。」「遊びのルールがと中でかわってしまう。」「タッチしたのにしないと言われる。」「おにぎりに向かってあおつしめる。」など、こまちがたくさん出ました。

ぼくは、おにぎりの時に、おにぎりをあおつしましたことを思い出しました。おにぎりにタッチをされた時にバリアを使ってしまったこともありました。ぼくは楽しむことに気づきました。だから、あおつたりバリアは使つたりしないようにしようとしました

みんなでこまつを出し合った後、どうしたらよいかみんなで考えました。ぼくも自分で考えたことを発表することできました。

話しながら中で、クラスでこまつがかいがつしない」とがありました。それは、遊んでいる時に上級生がじやまをしたり、ボールをけつてきたりする」とです。そこで、代表委員会でお願いするにしました。

先生が、

「だれか代表委員会に出てくれる人?」

と聞つたので、僕は一番に「はい。」

と手をあげました。みんなのために意見を言いたいと思つたからです。でも、一人だとふあんなので

「二人がいいじゅ。」

といつたり、みんなも手をあげてくれました。

代表委嘱係は、一人で出たのでどちらもせんじた。一年生からじゅん番に當つたせんじ、じゅんがいつしょだな、と黙つて聞いていました。

ぼくたち三年生も、みんなといつしょにクラスのじまりを伝えました。ややこしくなることがじめしかつたです。

わいわいは、すべどラボールをして遊んでいました。みんなわいわいながら楽しく遊んでいました。ぼくもあたりをしなじようにじきじきしてます。少し、それをつづけていきたいと感じます。

上級生も、代表委嘱係で伝えてから、じやまをしなくなりました。よかったです。

これからも、じまとことがあつたらみんなで語り合いい、伝えていきまく。



『ふみきり向こう』で考えたこと

豊後高田市 小学校 五年

酒井 心湖

「みなさんが、サコの友だちなんだと思いますか？」

先生が、『ふみきり向こう』の勉強で、私たちにたずねました。私は、ドキッとした。サコは『ふみきり向こう』に住んでいた事で差別をされていました。無視やからかい、仲間はずしをされていました。『ふみきり向こう』に住んでいた事で、ヒリヒリした風に差別されるのか腹が立つていました。

しかし、先生から『ふみきり向こう』にサコが住んでいたことを知りやれたとせ、私なりにやめるかをたずねられたと、サコをかばい味方になつてあげられるか迷いました。サコの友だちのよひに距離を置くかもしれませんと感じました。「戻したら」「サコをかばいたら」ところの返せりと向こうへいこ、「サコと同じように差別をされたら、イジメられた怖い」と思つたからです。

グループで想いを出し合ったとせ、私以外の人は、サコのために戻すと発表しました。一人だけちがう」とを言つたと「おかしい」「差別やねえ?」と、言われるかもしれないと不安になりました。しかし、

勇気を出し「とにかく」「分かぬよ」と最後まで諍ういへれどホッとした。でも、私は「差別してしまつかも、そんなに強くなければならない。」と思つてしました。

次の時間のめあとは「サヨとサヨの友だちを仲なおつむせよ!」でした。「仲なおりなんじやねの?」と思つていました。だけど先生が、

「トトロちゃんの前で、あやのちやんが泣いていたり、差別をされたらどうですか?」
と、言われて気がつきました。もし私なら、「困つてたら友だちがいたら助けのし、一緒に解決したい、差別をなくすには、相手のことをよく知ればいいことなんだ。」と思つました。

『らみやのりのり』の物語で、差別は、よく相手のことを知りなさの上、うわせやあぬつせじおじいさんが分かりました。私は仲良しの友だちや大人が言つてことを信じて差別してしまつかもしれないところの自分にも気がつきました。そして、自分の身近な生活の中にもさよとつた差別があることにも気がつきました。だけど、仲直りをして差別をなくす方法をみんなで考えねじりで、もつとみんなが仲良くなれた気がしました。

「これから私は、いろいろな人に出会つてきます。一人ひとり、顔も性格もちがいます。好きな人も好きになれない人もいると思つけれど、うわせやあぬつけをしないで、相手の事を理解できる大人になりました。」と思つました。

自分のへそへ生れる

ていな「デザイン」の物を持つてこます。

2才上の姉は、スヌーピーやチップとデールなどが好きです。かみの毛は長い、かみどめや、「ム、リボンなどおしゃれをよくします。スカートも好きでよくはいています。私はせんせんちがいもす。でも、似ているところもあります。怖がりだったり、負けず嫌いだったりするところです。

森島 叶帆

最近は、一緒にメイクやおしゃれについて一人で話をしたり、色がいの服を買ったりします。でも、好きな物はちがうところが多いので、時々かえつりしたり、着たりもします。

「ねこ、ルノのまつわー。」いつもわを持つて来い。」「はい? 私ですか?」
「あ、じめんな。女のややつたんやな。」

総合的な学習の時間の活動の一つ、植樹の手伝いの時出来事です。

私は、かみの毛は短いです。服装もどちらかといつとスカートなどは好きではなく、パンや動きやすい服が好きです。色もピンクなどのが持つてみんなの色はあまり好きではなくどちらかといつと、黒や青などのシックな色が好きです。持ち物もキティちゃんやすみつこばいしなどのキャラクターなども、あまりみんなが持つ

て、かほと畠ぬいとが楽しこと思つてくれる人と出でつ

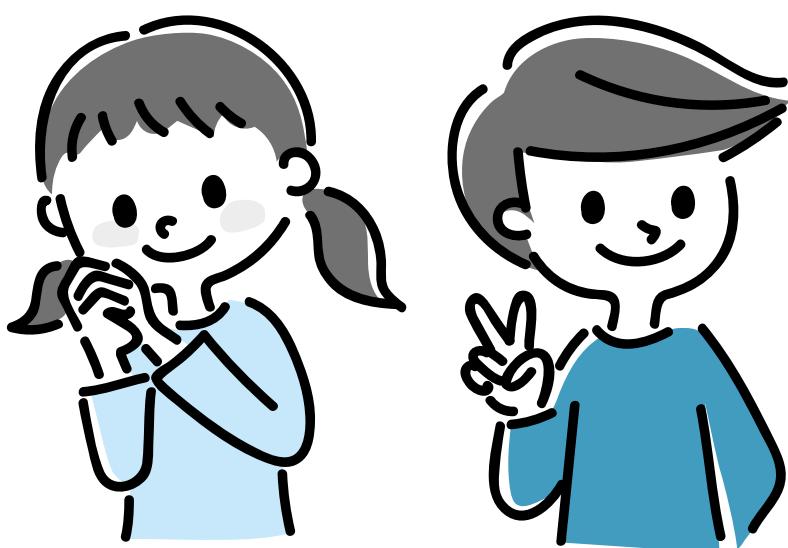
し、その人と居ればいいよ。かほはかほー無理して自分にいりをついたらダメよ。」

と言われました。それからは持ちたくないものは無理して持たないようにしました。自分の着たい服を着る。したい髪型にするようにしました。

でも、大人の一言で傷ついたり、「やつぱり女のやうじい服や髪形にしなきゃダメかな……」と思ひ歸りますが、見た目で決めつかるのはちがうと思ひます。「女性りしゃ」「男性りしゃ」ということが、必要な時もあるし、体のつくりがちがうからそれそれにしかできないこともあります。でも、「男だから」「女だから」というのはちがうと思ひこともあります。それそれが、性別にとらわれないで、自分自身を大切にし、お互いを思いやる心を持つことが大切だと思います。

人はみんな顔もちがうし、体型もちがう。性別もちがう。住んでいるといふも、感じ方も、声も、考え方も、好みもちがう。それそれにちがいがあり、それを認め合いながら生きていこうことが大切だと私は思います。人の心の中は見えません。どれだけ楽しんでいるか、

笑つていろのか、思つていろのか、悲しんでいろのか、傷ついていろのかは周りの人には見えません。だからこそ、私は自分自身を大切にし、そして、周りの人の心を大切にし、見た目で決めつけずに、みんなが自分らしく生きていける時代になるといいなと思います。



「個性」は大切

玖珠町 小学校 五年

川野 真優

私は、道徳で「権利の熱気球」という学習をしました。いくつかの権利の中から自分が大切だと思うものを選んでいくという学習でした。たくさんの権利が出てきましたが、その中でも私は「みんなと異なっている」というを認めしむられる権利」や「いじめられたり、命令・服従されない権利」の2つが特に大切なのではないかと考えました。

「みんなと異なっている」を認めしむられる権利」が大切だと思った理由は、一人ひとり好きなものや嫌いなもの、得意なものや苦手なものが違うと思ったからです。私のクラスも一人ひとりが違つて個性があるか

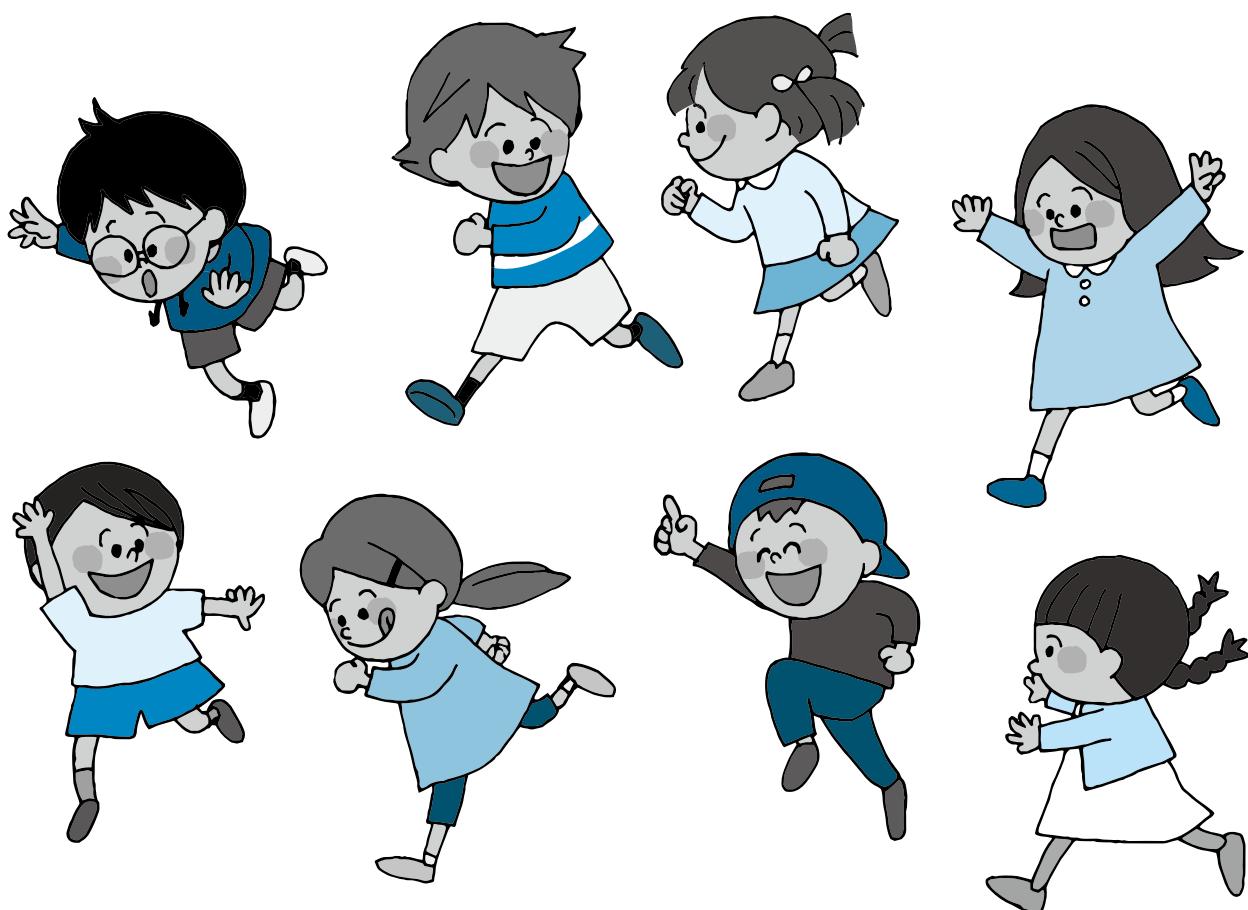
らいから、楽しいことが起つるのだと思います。もし「の権利がなければ、みんな一緒にでなければならぬ」ということになります。つまり、みんな同じ服・同じ食べ物・同じ考え方でなければならないのです。もしみんなが「同じ」になつてしまつたら、話しかけてもできません。もし、みんなが間違つたことを考えてしまつたとき、それを見直したり、正しくしたりするチャンスもあります。とても恐ろしいことだと思いました。

「いじめられたり、命令・服従されない権利」が大切だと思ったわけは、この権利がある「」がとても幸せだと感じたからです。この権利がなかつたら、いじめられても、嫌なことを命令されても我慢するしかありません。私たちが自由に考えたり、自分が正しいと思う行動ができるなくなることはとても怖い」とだと思いました。日本は、「いじめられたり、命令・服従されない権利」が認められていらぬと思います。でもニュースなどを見てみると他の国では、それが認められていない「」もあると知りました。だから、自分がしたいと思うこと・正しいとと思うことを、思い切りできる「」はとても幸せな

「」などなどと感じました。

今回の学習を通して、「人権を大切にする」というのは、きっと「違いを認め合わ」ことなんだと学びました。学習の中で、自分が大切に思う権利について友だかと話しあう場面がたくさんありました。友だかと考え方を比べてみると、それぞれが大切にしたい権利が違う、その理由も様々でした。自分と違う友だちの考え方を聞くことは、とても勉強になつたし、楽しげと感じました。何より私の考え方を友だちに聞いてもらえたとき、「なるほど」とうなずいてもらえたとき、とても嬉しくて心が温かくなりました。こんな気持ちをこれからも感じたいし、私の身の周りの人にも感じてほしいと強く思いました。だからこそ「違いが認め合える」関係であるために、「みんなと異なつていいのを認めてもうえる権利」や「いじめられたり、命令・服従されない権利」は大切にしたいと思いました。

これから私たちはたくさんの人と出会いだと思います。そんなとき、出会う人たちとの違いを大切にし、楽しみながら過ごしたいと思います。



自分の経験を 通して思うこと

中津市 小学校 六年

Ｋ・Ｙ

私は、三年生のとき、ちょっとしたいじめを受けました。そのとき、引っにしたばかりで相談できる友だちもいませんでした。

いつも仲良くしていた友だち二人が、急に態度が変わり始め、「死ね」や「キモイ」などいわれるようになりました。一人の子が悪口をひつても、まわりの子は止めてくれず、笑いながら「やめなよー。」と叫んでいました。はじめをしてくる理由もわからず、「この前まで仲良くしていたのに」と悲しい気持ちでいっぱいでした。

ある日の休み、となりのクラスの先生に、私と他の友達三人が呼ばれ、悪口を言つてきた子と話し合いをするようになりました。何を言われるかと思うと、過去に悪口を言つてきた子が、逆に私たちに無視されると書いていたのです。なぜか私たちが悪いかのように話し合が進められ、せつかくの話し合いの場で自分の気持ちを伝えることができませんでした。

「私は無視したつもりはないで、あの子が急に無視する

でした。

夏休みが終わって、もう無かったように接してきて「意味わからん」などとモヤモヤしていました。

一学期に入ると、悪口を言つてきた中心の子が、私とその時仲が良かつた子を無視していくようになりました。それがきっかけで、その子とは話さなくなり、他の友だちと仲良くするようになりました。

五年の初め、いじめアンケートがありました。私は友だちも多くなり、毎日が楽しかったので、過去のことは書きませんでした。

ある日の休み、となりのクラスの先生に、私と他の友達三人が呼ばれ、悪口を言つてきた子と話し合いをするようになりました。何を言われるかと思うと、過去に悪口を言つてきた子が、逆に私たちに無視されると書いていたのです。なぜか私たちが悪いかのように話し合が進められ、せつかくの話し合いの場で自分の気持ちを伝えることができませんでした。

「私は無視したつもりはないで、あの子が急に無視する

よくなつたと思つていただけで、あの子は逆だと思つていたのかな。もつと向き合つて話をよかつたのかな。」

と頭が混乱してしまった。すると、その子が教室に来たので、「私が、「私は無視したつもなんかなかつたけど、それが思うような態度をとつてじめん。」とあやまる」と、「私は、あの時すゞめんやなことして本当にじめん。」とあやまつてしまつた。長い時間がかかつたけど、この時やつと仲直りができるたと思つた。「もつと早くこうすればよかつたな。」と思つた。

つらつら経験をしたから、「じめはなくなつてしまつ」と思い、それと同時にそれでもいじめはなくならないんだと思いました。今も全国には、いじめでなやんでいる人、もつ死にたいと思つてゐる人がたくさんいると思ひます。たとえ「じめん」と仲直りしても、心についた傷は一生消えません。それは、いじめを受けた側も、いじめをしてしまつた側も同じことです。

だから、私は、自分自身がされたことをほかの人にして傷つけたくないから、ちょっとでも悪いことをしたなと思つたら、すなおに「じめんね」とあやまり、なやん

でいる友だちがいたり手を差し伸べられる人になりたいです。



運動会での疑問

竹田市 小学校 六年

飯田 瀬

ぼくは、「じつは男女と男子、女子と女子では同じ組になれないのだろう?」と思いました。ぼくたち4人のなかでは、ほとんど体力の差はないと思います。ですが先生たちは、あたりまえのように組を決めてしまいました。

ぼくは道徳の時間に、男女差別について考えました。授業をする前は男女差別といつものあまり知らないし、考えたいともありませんでした。

ぼくのクラスは男子2人、女子2人の4人のクラスです。の円に行なわれた運動会では、まず団長を決めました。団長は、『ぼくと女の子の1人』の2人がする」とになりました。この時点での年生の組み分けは、男女のバランスを考え必然的に決まつてしましました。その時



授業中にはみんなと話しかけたり、やめたり男女のバランスを考えてチーム決めをするのはおかしいという意見がたくさんありました。「男だから」「女だから」といつて分かれるのではなく、平等に見て力の差で分かってほしかったなと思います。

ぼくさんの授業を通して、常に男女差別をなくすためにはどういった行動ができる人になりたいなど思いました。そしてみんなが男女差別をなくしていく意識を持ち、みんなが平等に生むるのだから世の中になつてしまひます。



傍観者になつた自分

津久見市 中学校 一年

中野 莓萌

私は昔から人見知りで、人に何も注意ができず、いつも見ていたいました。こんな自分が私は嫌いです。でも今回ばかりは、違うま。このままではダメだと思い、勇気を出して言おうと思いました。でもやはりなかなか言葉が出てこなくて、見過してしまいました。

私の学校の同級生のAさんは中学に入つてからとても変わりました。自分の気に入らないことがあると機嫌が悪くなり、同級生に当たつてしまします。私の友だちのBさんは何もしていないのにAさんから悪口や嫌がらせを受けていました。私はこの状況を見て、注意をしようと何度も思いました。でも、声をかけることができず、その場から逃げてしましました。今度こそ逃げないと思つていたのに。

その後、状況が悪化してしまって、クラスで話し合いになりました。私は声をかけることができなかつた自分を振りかえり、とても申し訳なくなりました。

話し合いが終わつて何日かたつたある日、Bさんが学校に来なくなりました。私はとても心配になり、先生に理由を聞きました。やはり、Aさんのことがあって、そのことが原因で来なくなつてしまつたと聞かされました。私はどうしたらBさんが来れるようになれるのかを考えました。私だけでは力が足りないと想い、親や友だちに相談をたくさんしました。先生にも相談しました。すると、「Bさんを一人にしないであげて。できるだけ一緒にいてあげるといふと思つよ。」と言われました。

そうしたら少ししづつ悪口を言わなくなつた気がしました。私はすぐくうれしかつたです。私は少しは役に立ったのかなと思いました。みんなもだんだんと注意していくようになりました。少しクラスの団結力が上がりつつあると感じるので、この調子で頑張りつと想います。Bさんは何があつても人には言わば自分の心の中ですつと閉じ込めてしまつことがあります。私が「何かあつた? 大丈夫?」と聞くと必ず「いや何もないよ」と言います。

私はAさんの気持ちがよく分かります。私も自分の中

で解決しようとする力があるからです。私の場合はす

べてため込んで、ストレスで一杯になってしまい爆発してしまいます。『飯が食べられなくなり、ドライバーをしていたら髪が抜けてしまいます。こんな辛い思いを大切なBさんにしてほしくないから、なんとか解決策を見つけたいと思いました。Bさんが元気がなさないだったり声をかけるようにしたり、話を盛り上げたりしました。そうするうちに、Bさんは少しずつだけど、笑顔が増えていきました。私はよかっただと思いました。Bさんの方から話しかけてくれたり、笑わせてくれるようになつてきました。それが感じられた時私はとてもうれしかったです。私の思いが通じた気がしました。

私は自分が変わったことをみんなに知つてもらいたいと思つていました。Aさんみたいに、そして私みたいに自分で何でも解決しようとして、無理をしてしまう人を少しずつでも救いたい、そんな思いから作文を書くことにしました。一人で悩んでいる人、辛いって思つている人は、少しでいいから周りを頼つてほしくです。誰かが見ていると思うのです。私がAさんを助けたい力になりたいと思つていていたように、きっとその人の周りには支えたいと思つていていた人がいるはずのです。そのこと

に気づかせしたいです。

でも頼ることは、実はとんでもなく高い壁があつて、簡単には越えられないことも私は知つています。本当に頼れるのか、こんなこと言って大丈夫なのか、嫌がられないか、むろには文句を言われないか。いつも不安で胸が張り裂けそうになることを、私は知つています。だからこそAさんを救いたかったのです。私がいるよと伝えたかったです。

学校に行く権利、勉強する権利、そして安心して教室で過ごす権利を私たちは平等に持つています。私も新しいことに対する不安が強くて、并い」とがたくさんあります。でも、いつも先生や周りの友だちが教えてくれたり、支えてくれたりして、何とか過ごすことができます。困つた時は助けてもらいつつ権利があるのではなじでしようか。そして、困つている人を助ける義務があると想つのです。私はAさんに関わる中で少し勇気が持てたと思うのです。教室が、辛いと思う人を支えたいと思う人でいっぱいの場所であつてほしく思います。私はこれからもその中の一人でいたいと思います。

二年間の

部落問題学習を通して

わかつたしました。部落差別は、絶対にしつらひないことだと今は思いました。

部落差別とは、自分たちでは解決じゃない理不尽でどうしようもできない差別です。部落差別はよくないこと、でも最近、それに少し理解せ始めたのではないかと思ふ言葉があります。それは、「親ガチャ」という言葉です。今年の流行語大賞にノミネートされていて、テレビでよく耳にします。「親ガチャ」のとは、「生まれたときのお父さん、お母さんを選ばう」のができない、ガチャのようだ。」との意味です。普通に聞えれば、「親ガチャ」はあまりよくない言葉だと思いました。しかし、テレビやインターネットなど、「親がどのくらい稼いでいるかで将来、おじもせいかなつてこらる。」とこつたデータの表やグラフを見るとあります。すると僕は、やっぱり「親ガチャ」つて何のかなと感つてつになつてしましました。

「親ガチャ」は、部落問題と違う、差別はされてしません。でも、僕がもし部落差別を改善したい、

僕たちは中学校二年間、部落問題学習に取り組みました。初めての部落問題学習「ふみ切り向ひ」、平成二十八年十一月施行「部落差別解消推進法」、これらの「これから、住む場所などから生まれるどひつよりもない差別を許しません」ということを学習しました。でも、この学習で、「部落差別つて何のやうなんだ。」つい思つた自分もいました。確かに差別はいけないこと、だから「つて何のやうな…」と思つてしましました。しかし、この学習から二年間、たくさんの部落問題学習を通して、考え方や部落差別への思いがだんだんと変

豊後高田市 中学校 二年

一 岩 義彰

す。でも、「全国水平社創立」の学習でその考えが変化しました。山田少年が、今まで学校や友だちに差別された話や涙で一日が終わる口があったという話をたくさんの人前で訴えたところです。悲しみを打ち破ろう、光に輝く世の中にしようという呼びかけ、少年が呼びかけている姿を見て、生まれてきた場所で自分の将来が決まるわけではなく、自分から行動することで自分にとつて明るい将来がやってくると思います。部落問題学習を通して、「親ガチャ」に対する考え方も変化しました。

三年間、部落差別について学習して、どうしようもできない差別を許してはいけない、あつてはならないものだと思います。私たちのクラスの人権目標は、「一・相手がどう思うか想像して接する」「二・正しい」とは何かを考えて行動する。「三・互いの良さや個性を認め合う。」です。もうすぐ僕たちは、高校生です。進学した場所、これから働いていく場所でも、おかしいことはおかしいと声を上げ、差別のない明るい未来になるように、自分から行動していきたいです。



差別について

竹田市 中学校 三年

吉岡 愛

二〇二〇年は新型コロナウイルス感染症が大流行した年でした。私の母は、大阪で仕事をしていました。大阪は、とても感染者が多く、緊急事態宣言も他の県よりも早く出されました。母は大阪市内の保育園で働いていました。母の保育園でも、感染が広がらないよう、「保育園の中ではたくさんの方策をしていました。

私は母と離れて大分で暮らしていました。母から話を聞きながら、大阪での生活はとても大変だと感じ、心配して過ぎていました。あるとき、近所の人から、「お母さんは、コロナにかかったんでしょ?」といつわざのよくなおたずねをされました。母は、コロナに感染していないのに、まるで感染したかのように言われて、

ショックで私の心は傷つきました。うわさで傷ついて想いをする人がいなくなる社会がつくれたらいいな、と強く思いました。

そのとき、私は、これまでの自分の言動を振り返りました。自分をふり返ったときに、うわさを信じて、そのうわさで友だちと会話をする「い」とはなかつたかな、と心配になりました。もし、うわさばなしを聞いたとしても、そのうわさを信じて「い」にすらのではなく、自分で見たもの聞いたものを信じる強い心をもちたいです。

全国のコロナ感染者数が毎日報道されたりぬけれど、感染者数が多い都道府県から、感染者数の少ない都道府県に必要な移動をしたときに、感染者数の少ない都道府県の人たちはすぐくいやな言葉を口にすることが多いと「い」とも知りました。私は、そんな言葉を聞いて、とても悲しいです。けれど、私も、母が大阪で働いているので、母が用事で大分に帰ってきたときには、近所の人や、学校の友だちに内緒にしたい気持ちでした。私自身にも、悪気はなくとも、偏見の思いがこみあげてきました。そんな風に思う私は、他の人に「お母さん、大阪か

ら帰つたの。」 じつやがられのではないかと思い、内緒にします。でも、よく考えたら、そんな思いで内緒にしたいのと云ふことは、私もコロナに感染した人を特別視しているのと同じではないかと思いました。そういう気持ちが差別を生むのではないかと感じました。そういうふうなことからひとつずつ、強い心をもつていかねばなりません。

今年の七月から開催されたオリンピックを見て感じましたことがあります。開会式において、そもそも何な国、人種の人たちの行進を見ました。今、世界では、人種差別の撲滅運動が強化されているけれど、去年、白人の警察官が黒人に暴行して、死亡させてしまうという事件があつたニュースで知りました。それらを見るかぎり、まだまだ差別は続いているんだなと感じました。オリンピックでは、どの国の人も皆、同じ人間どうし、尊重しあえているのに、どうして肌の色や日の色・国籍で差別するのだろう。アメリカでの差別のニュースは、とても小さく、なきないものだと感じました。

私は、田の色や肌の色・国籍で差別することなく、相

手を尊重する気持ちで接したいと思つます。そして、いろいろな差別を見たり、感じたりしたときは、注意できる人間になりたいです。そして、私自身差別しないようにしていきたいです。

今、私が生きているの社会は、どのような社会だらうか。新型コロナウイルス感染症が世界的に大流行して、緊急事態宣言やまん延防止措置等も、たくさん出されています。「田舎していらない」と云う理由で責められたり、やむをえない用事で県外に行つてもひどいことを言われたり、差別されたり、ひどいコロナ差別をされた人は、一生心に傷を負います。そんな社会はもういやです。私が大人になつてゐるには、差別などなく、世界中の人に、みんなが笑顔で明るい未来になつてほしいと思います。私も、社会をつくる一員として、強い心をもつてがんばります。

様々な力タチの オリソピック選手

豊後大野市 中学校 三年

西山 未来

今年の七月二十三日から開催された東京2020オリンピック期間では、連日、関連したニュースが放送されていました。皆さん印象に残っているニュースは何でしょうか。選手入場でゲーム音楽が使用されたこと、日本が過去最多のメダルを獲ったこと、もしくはそれの種目で記憶に残るプレイがあつたかもしれません。私はそのたくさんのニュースの中で一際目を引かれたものがあります。そのニュースとは、オリンピック史上初めて、男性から女性へ性別変更を公表したトランジエンダーの重量挙げの選手が女子選手として出場する。というものです。つまり身体的には男性として生まれ、しかし心や思考は女性だという人が性転換手術を受け、女性選手としてオリンピックに出たのです。その選手は試合に出ると批判され、他国選手団から出場資格の取り消

しを求められたそうです。女性の権利を主張する「ユーダーランドの団体は、「男性」が女性の機会を奪つていると批判し、出場に反対しました。他にも、人生を変え手の東京オリンピック出場に対する様々な反対意見がありました。私も最初にこれを聞いたとき「たしかに、この選手が出場することで出場できなくななる女性選手もいるのか……それに男性の身体をもつ人が女性選手と競うというのはどうなんだろう……」と思いました。ですので、出場反対派だったのかもしれません。皆さんは、その選手の出場に反対どう思いますか。私のように反対する人はいるでしょうか。

ですが、私の意見が覆る出来事がありました。それは私がこの作文を書くにあたり、その選手について調べていたときのことです。私はとある記事をみつけました。記事には記者の「なぜ重量挙げという競技を始めようと思ったのか」という問い合わせしてその選手がラジオで語ったことが書かれています。

「男っぽいことに挑戦すれば私も男になれるのではないか」と思った。だが、残念ながらそうはならなかつた。思惑通りにいけば、人生で最も暗かつたあの時期が多少なりとも過ごしやすくなるかもしれないと思ったのに。」というものです。私はこれを読んではつとしました。その選手がオリンピックに出るまでにどれくらいの壁があ

「男っぽいことに挑戦すれば私も男になれるのではない
か」これからはその選手が男性としての生きづらさを感じ
ながらも、必死に心を身体に合わせようとしてもがいて
きたことがわかります。きっと、親や周りの人たちは、
男として生まれたその選手が当然男として生きることを
期待していました。そしてそのじく当然の期待に
選手が応えようとし、男っぽいことに挑戦していったの
だと考えます。ですが、結局三十代で性転換手術を受け
ることになるのです。

私の中にも自分に対して、「○○なんだから当然こうあるべきだ、こうあるはずだ」という固定観念がありますし、皆さんにもあると思います。○○の中には、例えば、女子という言葉や、最上級生、最近だと受験生、という言葉が入ってきます。それらが支えになることもあります、時にプレッシャーになることも私はあります。そんな時に私ならば友達や先生に心を開いて素直に話すことができます。ですが、その選手の場合はどうでしょうか。自分の性に対する悩みを乗り越え、自分に素直になつて「自分らしく」女性として出場すると、その「素直さ」が多くの人批判されるのです。それはどれだけ辛いことだったでしょつか。

そして、この選手は一度引退しています。その時に「私」のような人間のために作られたわけではないに違いない世界に自分を合わせなければならぬプレッシャーが大

きすぎて耐えられなくなつた。」と語っています。これを見ていてもまだ反対をする人がいるのでしょうか。そのことを決めつけることで、その人を生きづらさせてしまつてゐることに気づいていますか。たしかに、私が始めに考えたようにその選手が出席することで、女性選手が出席できなくなつたり、メダルがそれになくなつたりするという考え方もあります。また、女性選手なのに男性の身体を持つてゐるのはどうか、という意見もあるでしょう。しかし、その選手は女性選手として出席するために、先ほど述べたような性転換手術を受けたり、男性ホルモンの血中濃度を下げるといった努力をし、国際オリンピック委員会が定めた条件をクリアしていきます。ですので彼女は、女性選手です。女性の心をもつて生まれた人が数々の壁やハードルを乗り越えて、身体も女性になつたのです。私は今なら何の問題もないと自信をもつて言えます。

これから、私たちは偏見や差別によつて生きづらさを感じてゐる人が過ごしやすい環境、そして周りに安心して公言できるような環境をつくつていかなければなりません。そのために、トランジエンダーの人々への偏見を少しづつでも減らしていくことが必要です。私も含めた皆さんの中にある小さな偏見をなくしていきましょう。

流されるところ

久大地区 高等学校 二年

赤峰 希ノ花

クラスに一人はいるなぜか権力を持つ人。

そんな人に意見を合わせたり、ひどい場合は「いじめ」に加担したり、見て見ぬふりをしたことはありませんか？。

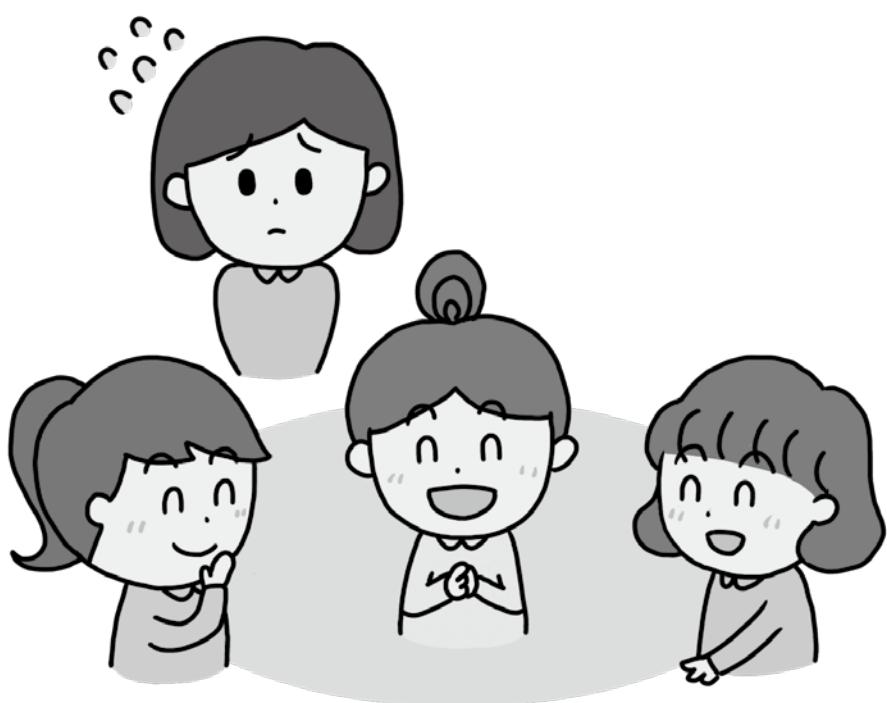
私は小学校の時に転校した学校で何度も流されてしまつたことがあります。初めての場所、初めての環境に凹悪いながらも、どんどんなじんでいました。そんな時に気付いたのは、いつも一人でいる女の子でした。私

は話しかけようと思ったが、「みんなが話しているから」「私も一人になつたらどうしよう」という思いが勝つてしまい、そんなつもりではないのに、その小さな「いじめ」にのつてしまつたのです。そして、女の子は「つらさ」と学校に来なくなり、何度もクラスの話し合いをしていました。私は正直に「つら」と、自分の力で来れるだらうからしか思つていませんでした。

でも、ある日私はいつも一緒にいる人たちと喧嘩をしてしまい、移動教室は一人で行動する「一人」になりました。たつた一日間程の喧嘩でしたが、「一人」は相当地へ、周りが友だちと楽しそうに行つてゐる中、笑うことなく黙々と行動してゐる時間はとても寂しく感じました。私はそこでやつと女の子の気持ちを理解することができました。そして私は、その女の子に渡す連絡袋にみんなから

のメッセージを集めて入れることを始めました。すると、気持ちが届いたのか少し学校に来るのはつになりました。学校に来た時には周りに流されず、たくさん話しかけたり声掛けをしたりを、一人で続けました。そんな姿を見た、友だちも女の方に話しかけてくれるようになりました、女の方は私に「ありがと」「」と返して貰いました。その言葉を貰えた嬉しさと達成感で胸がいっぱいになりました。

私は周りに簡単に流されてしまい「」と知ったし、なにより「一人でも逆らう続ける人がいれば良い方向に流れなれ」ということも知ることができました。私はもつとその逆らう人が増え、少しでもおかしいと思える人が増えればと願っています。



僕のお姉ちゃん

久大地区 高等学校 二年

横山 創太

姉と一緒に町やショッピングモールを歩いていたときに必ずじやじやじつを見ます。私はそのことが悔しくて苦しかったまりません。ですが、もつと苦しい思いをしたことは姉の方だと思います。

なぜかといふと、私の姉は障がい者だからです。自由に動けないのもでかい、話すこともでかい。ですが、いつも私たちに笑顔をくれます。

なのに世の中には、障がい者に対する差別や偏見など

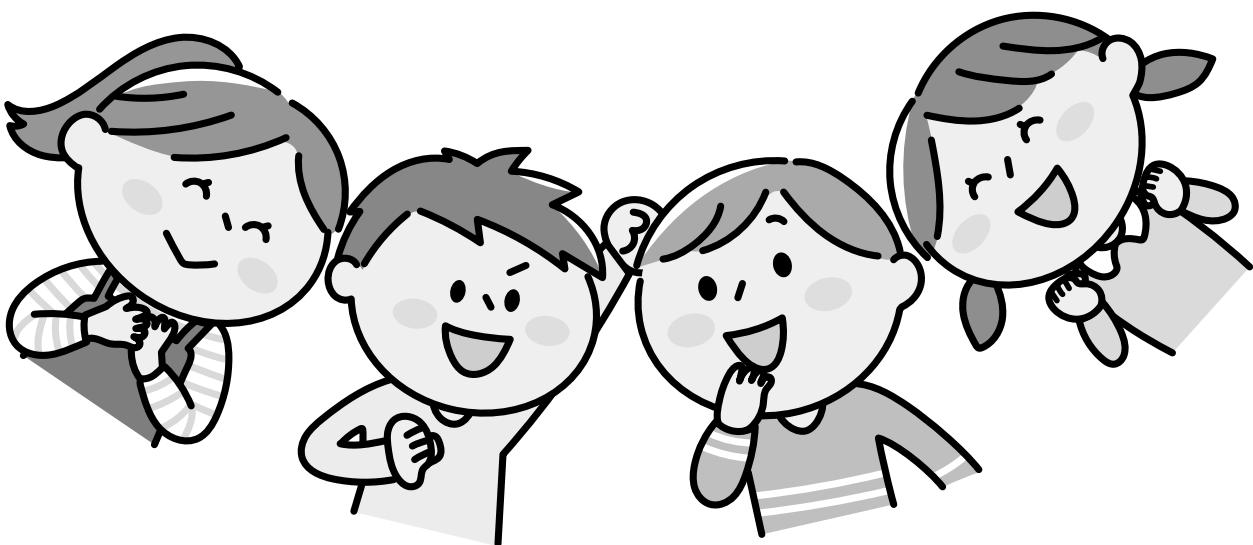
があります。「障がい者だから」「なにあらわ」のいつな言葉を何度も聞いたことがあります。「私たちの思いも知らないのに」「姉は障がい者になりましたわけではないのに」と尋ねれば尋ねるほど思いがこみ上げます。その中で私たちが一番嫌いな「ガイジ」という言葉が追い打ちをかけるように飛び交うのです。この言葉は本当に大嫌いです。このよつた言葉が一つでもいいからなくなれば、世の中は変わると感じます。

先にも書いたように、町などを歩いてみると見つれます。「あのひとおかしけれ」「ヤバイわ」などよく耳にします。障がいがあつてもなくても人間なのです。障がい者といつぱりはめられてしまい、自分の好きなこともできないといつぱり姉の気持ちを理解さんはわかりますか。それは姉にしかわかりませんが、私たち家族は今まで過ご

しかめたので、少しは理解であります。私は「少しでいいから当たり前の生活を送ってほしい」「毎日一緒に過ごしたい」と思っています。ですが、叶いません。それが現実です。

このよつなことを私は皆さんに知つてもらいたいのです。どんな気持ちで生活をしてくるのかを考えてもひいたいのです。私はこの世から「偏見」や「差別」、「ガイジ」とこの言葉がなくなり、人間みんなが楽しく過ぐせる社会になることを願っています。

お姉ちゃん、いつもありがとうございます。



性に対する人権

た。前述の気味悪がられたことが怖いところのせいの経験からです。

中津地区 高等学校 三年
橋内 田空

私は五歳くらいの頃、母に「なんで女の方に産んでくれなかつたの。」と聞いたことがあります。私はやさしい頃から自分の男という性別が好きではありませんでした。私はハートや星、フリルなど女のやういふものが好きでした。しかし、自分が男であることを理由に、いつもものに手を出し気味悪がられることが怖く、憧れだけが強くなつていきました。今思えば、トランスジェンダーのようなものだったのだと思います。

私は小・中学生の頃、何度も自分が男なのか女なのか悩んだことがあり、そのたびに「オカマ」と呼ばれました

高校では苗字をもじつし「はつしー」と呼ばれていたのですが、「はいしーの性別ははいしーだよね。」と聞いたりました」ともした。「の邊しやは誰にも瓜わらな」と思えるほどにあたたかい言葉でした。この言葉は十数年間私が悩んでいたものの答えなのだと気が付きました。性の多様化が進んでいたの時代は大きな問題を抱えています。それは何十年、何百年かけて作られた大きい、凝り固まつた意識です。

私の両親にも私の性の意識に対する理解があり、友だちにも支えられ思つたり考ふことができました。私の性の問題に対する答えは男 or 女 or その他では

なく、一人一人の人間として捉えることが大切であると考えています。私の性に対しての人権問題は決して暗いものではなく、環境に恵まれた幸せなものでした。私は私という人間に誇りをもつて生きています。すべての人が性に対しての人権に理解を持つことのできる意識改革が必要だと考えています。



あとがき

この人権作文集「ひかり」は、本来子どもたちとともに考えあつていくことを目的に編集され、日常的に活用されることを期待して作成されました。

子どもたちをとりまく社会が、ますます厳しくなっている現実があります。その社会の中で、子どもたちが、様々な気持ちを感じたり、新しい気づきを生み出したりしたことを、自分の言葉で綴っています。その思いを受けとめてほしいと思います。たくさんの子どもたちがこの作文集と出会うことを願っています。

また、教職員自身も子どもたちの思いを知り、日常の生活の中で、具体的な事実を通して、様々な矛盾や不合理、差別を見抜き、憤り、これから解決しようとすると子どもたちの姿に学んでいただ

きたいと思います。

残念ながら、応募された作品のすべてを掲載することはできませんでしたが、作文に取り組んだ子どもたちや、その指導に当たられた教職員、選定いただいた各地の担当者や編集委員など、多くの方々に厚くお礼申し上げます。

二〇二二年 三月

公益社団法人

大分県人権・部落差別解消教育研究協議会

